

京都・フィレンツェ姉妹都市提携 60 周年記念フォーラム

La vita civica di Firenze フィレンツェの市民生活と ルネサンス *nel Rinascimento*

日時

11月16日(日)

13時30分～16時00分

一般公開

無料・申込不要

登壇者

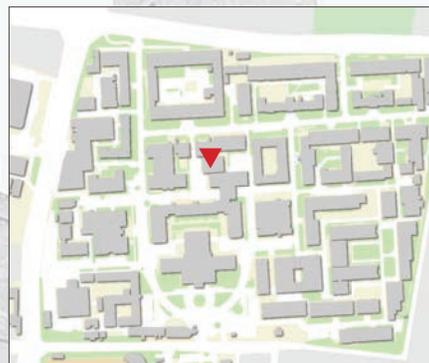
- 1 ルネサンスにおけるウェルビーイング
河合 成雄 (神戸大学 教授)
- 2 フィレンツェ・ルネサンス彫刻：だれのため？
遠山 公一 (慶応義塾大学 名誉教授)
- 3 中世末期のフィレンツェの生活
徳橋 曜 (富山大学 教授)

会場

京都大学 吉田キャンパス

文学部 第3講義室 (定員150名程度)

(京阪出町柳駅徒歩15分、京都市バス百万遍すぐ)



京都・フィレンツェ姉妹都市提携 60 周年記念フォーラム

La vita civica di Firenze フィレンツェの市民生活と ルネサンス nel Rinascimento

イタリア中部の街フィレンツェといえば、言わずと知れた「ルネサンス」の中心地。文学や思想、芸術など様々な文化が花開きました。そんな花の都フィレンツェと京都市は、今年姉妹都市提携 60 周年を迎えます。これを記念して、イタリアの文学・思想、美術、歴史の専門家が京都の地に集い、語らいます。

ルネサンスにおけるウェルビーイング



河合 成雄(神戸大学 教授)

フィレンツェというルネサンスの数々の美術作品を思い浮かべる人は少なくないでしょう。では、それらと密接な関係にあった思想的背景はいかがでしょうか。フィチーノという思想家を紹介しつつ当時の人々の新しい興味、生き様などを探っていきます。

フィレンツェ・ルネサンス彫刻： だれのため？



遠山 公一(慶應義塾大学 名誉教授)

フィレンツェの彫刻について、反メディチとして作られたミケランジェロ《ダヴィデ》、メディチ家のためのドナテッロ《ダヴィデ》、ギルドのためのオルサンミケーレ彫像群などを論じ、彫刻の造形と政治について話します。

中世末期のフィレンツェの生活



徳橋 曜(富山大学 教授)

中世の人々の日常はどんなものだったのでしょうか。彼らは現代よりもはるかに狭く濃密な社会の中で生きていました。また政治も身近なものでした。そうした人々の生活の色々な側面を史料に基づきながらお話しします。

主催：イタリア学会 Associazione di Studi Italiani in Giappone

1950年6月、京都大学にて創立された本会は、イタリアの言語、文学、歴史、美術、教育など諸分野の専門家間の交流を図りながら、日本におけるイタリア学の実現と普及に寄与することを目的とし、機関誌『イタリア学会誌 Studi Italici』の発行と、全国大会の開催を主たる活動としています。

創立 75 年を迎える本年、日本のイタリア学はじまりの地・京都にて、年次大会とあわせて、日本とイタリアのつながりを記念する本フォーラムを催す運びとなりました。